



2011年6月10日18時
独立行政法人 放射線医学総合研究所

内部被ばくの可能性のある原子力発電所作業員1名を 新たに受け入れ

独立行政法人 放射線医学総合研究所(理事長：米倉 義晴)

放射線医学総合研究所(理事長 米倉義晴、以下、放医研)は、東京電力(株)福島第一原子力発電所において、内部被ばくを受けた可能性のある作業員1名を本日新たに受け入れました。この作業員は、日本原子力研究開発機構による評価作業の結果、甲状腺の体内放射エネルギー(ヨウ素131)が高いことが確認されたため、放医研で健康診断を行うと共に、内部被ばく線量の評価を行うことになったものです。

この作業員は、50歳代の男性で、本日11時頃来所され、体表面の汚染検査、ホールボディカウンターによる内部被ばく検査、血液検査等を行いました。現時点では健康への影響は確認されていません。また、内部被ばくに関する線量評価については現在作業中です。